

西暦(年号)	主なできごと	取り上げる発掘調査
2011年(H23)	東日本大震災(M9.0)発生。 東北六魂祭開催。能-BOX開館。	
2012年(H24)	宮城野区文化センター開館。 ねんりんピック宮城・仙台2012開催。 南蒲生浄化センター新水処理施設着工(起工式)。 県道塩釜亘理線等かさ上げ道路事業着手。	
2013年(H25)	国宝「慶長遣欧使節関係資料」がユネスコ記憶遺産登録。 東北楽天ゴールデンイーグルス日本一。 国営仙台東土地区画整理事業(ほ場整備)起工式。	中在家南遺跡調査 (集団移転先の土地区画整理事業)
2014年(H26)	県道塩釜亘理線等かさ上げ道路着工(起工式)。 泉岳自然ふれあい館,子ども体験プラザ「Elem」開館。 市立病院が移転開院。 海岸公園災害復旧着工。	郡山遺跡調査(被災家屋復旧)
2015年(H27)	第3回国連防災世界会議開催。 防災集団移転先最終7地区の宅地引き渡し式・すべての宅地完成(東部津波被災地域)。 蒲生北部被災市街地復興土地区画整理事業着工。 海岸公園避難の丘着工。 地下鉄東西線開業。	下飯田東遺跡・屋敷東遺跡調査 (ほ場整備事業)
2016年(H28)	せんだい3.11メモリアル交流館開館。 北海道新幹線開業(新青森～新函館北斗)。 「政宗が育んだ“伊達”な文化」が日本遺産認定。 南蒲生浄化センター新水処理施設全系列運転開始。 G7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議開催。 復興公営住宅全3206戸整備完了 海岸公園避難の丘全4カ所完成。	川前遺跡調査 (土地区画整理事業)
2017年(H29)	津波避難移設全13ヶ所整備完了。 震災遺構 仙台市立荒浜小学校公開。 東北絆まつり開催。 世界防災フォーラム開催。	貞山堀・蒲生御蔵跡・和田織部館跡調査 (被災市街地復興土地区画整理事業)
2018年(H30)	フィギュアスケート男子シングル羽生結弦選手 オリンピック2連覇。 消防航空隊新庁舎開所。 国営仙台東土地区画整理事業(ほ場整備)完了。 海岸公園全面オープン。	高田B遺跡調査 (ほ場整備事業)
2019年 (H31/R1)	政令指定都市・区制移行30周年。 震災遺構 仙台市荒浜地区住宅基礎公開。 世界防災フォーラム開催。 東部復興道路(かさ上げ道路)開通。	鍛冶屋敷A遺跡調査 (宅地造成)
2020年(R2)	荒浜地区避難の丘利用開始。 新型コロナウイルス感染症流行。	
2021年(R3)	東日本大震災より10年。 東京2020オリンピック・パラリンピック開催。	

参照：仙台市ホームページ（仙台市のあゆみ：<https://www.city.sendai.jp/sesakukoho/shise/gaiyo/profile/ayumi.html>）
サイト「つなぐ おもい つなげるー東日本大震災から10年ー」（復旧・復興のあゆみ：<https://sendai-resilience.jp/shinsai10/archive/history.html>）



私たちの3652日

—震災復興と発掘調査—

本パンフレット中で、一部誤字がございましたので、次のとおり訂正いたします。申し訳ございませんでした。

正誤表

場所	誤	正
2 ページ	③鍛冶屋敷 A 遺跡	③鍛冶屋敷 A 遺跡
4 ページ 「文字が刻まれた砥石発見!」の記事中、 上から 5 行目	…鍛冶屋敷 A 遺跡には…	…鍛冶屋敷 A 遺跡には…

令和3年は東日本大震災発生から10年目の節目の年となります。集団移転先の区画整理事業、震災後の人口増加による宅地造成、産業集積の促進、被災家屋の復旧、農地復興等、仙台市教育委員会では、これまで震災復興に伴う数多くの発掘調査を行ってきました。

今回は、これらの震災復興に関わる10年間(3652日)の発掘調査成果をご紹介します。震災復興を機に見つかった遺物や遺跡をご覧ください、10年間の震災復興の歩みに思いを馳せていただききっかけになれば幸いです。

今回取り上げた主な遺跡



- 荒井地区**
 - ① 沓形遺跡 (くつがた)
 - ② 中在家南遺跡 (なかざいけみなみ)
- 富沢駅西地区**
 - ③ 鍛冶屋敷A遺跡 (かじやしき)
 - ④ 川前遺跡 (かわまえ)
- 蒲生北部地区**
 - ⑤ 貞山堀 (ていざんぼり)
 - ⑥ 和田織部館跡 (わだおりべたてあと)
 - ⑦ 蒲生御蔵跡 (がもうおくらあと)
- 市内各遺跡**
 - ⑧ 郡山遺跡 (こおりやま)
- 仙台東災害復旧関連地区**
 - ⑨ 高田B遺跡 (たかだ)
 - ⑩ 屋敷東遺跡 (やしきひがし)
 - ⑪ 下飯田東遺跡 (しもいだいひがし)

弥生人は何を盛りつけた?



なかざいけみなみ
中在家南遺跡では、河川跡の古墳時代の層から平成25年に行われた発掘調査で、河川跡から弥生時代～古墳時代の土器や石器、木製品が数多く見つかっています。そのうちの一つは、浅い器に台が付いた「高坏」という種類の弥生土器で、丸ごと1個、つぶれたような状態で出土しました。

中在家南遺跡では、今のところ弥生時代の住居跡は見つからないため、周辺に暮らした人々が使った器と考えられます。

高坏は、食べ物を盛るのに使われたとみられますが、日常の食事の際に使われたのか、特別な儀式などの際にお供え物を盛るなどして使われたのかは、残念ながら分かりません。もしも自分が弥生人だったら何を盛りつけますか?

中在家南コンサート開催?

なかざいけみなみ
調査では、未完成の楽器と考えられる遺物が出土しました。中国の古代楽器「筑」に形状が似ていることから、「筑状弦楽器」または「筑形木製品」と呼ばれています。



楽器(筑形木製品)

未完成と考えられているのは、弦を張るための突起が上端側に作られていないからです。

制作者は満足のいく楽器に仕上げることができず廃棄したのでしょうか。真相は謎に包まれています。この遺物は、昔から音楽が生活の中に存在していたことを証明しています。大昔の中在家南ではどんな音色が響いていたのか想像してみてください。

中在家南遺跡 若林区荒井

中在家南遺跡は、市の東部にあり、地下鉄六丁の目駅の南約1kmに位置します。水分の多い泥炭質土壌ということもあり、多数の木製品や骨角器など、通常の遺跡では残らないものが良好な状態で発見されています。

愛くるしい姿の岩偶発見!!

川前遺跡からは縄文人がまつりやまじないに使用したと思われる岩偶と土偶が出土しました。実用性はなく、豊作や子孫繁栄、病気やケガから身を守れますようにと願いを込めて作られたものだと考えられています。このような出土品があることから川前遺跡は、居住の場であるとともにまつりを行う上でも大事な場であったことがうかがえます。



4 川前遺跡 太白区富沢

発掘調査は、平成27年度に土地区画整理事業に伴い行われ、現在の地面の1m下から縄文時代後晩期(約3000年前)の土器、石器等に加えて祭祀で使用された岩偶や土偶、石刀などが出土しました。

文字が刻まれた砥石発見!

鍛冶屋敷A遺跡からは平安時代(9世紀後半頃)の竪穴住居から砥石に文字が刻まれた「刻書砥石」が出土しました。

これは古代の上申書(役人に提出する書類)の書式で、鍛冶屋敷A遺跡にはこのような文書に係る人がいたことがうかがわれます。このことから、定型化された書式が古代の地方社会にも広く知られていたことを意味します。文字が刻まれた砥石は東北地方で初めての発見です。



刻書砥石

3 鍛冶屋敷A遺跡 太白区富沢

市の南部にあり、JR長町駅の南西約3kmに位置します。昭和60(1985)年から平成30年にかけて5度の発掘調査が実施されました。縄文時代の竪穴住居跡や平安時代の線刻が施された砥石などが発見されました。

墨で文字の書かれた大量の木簡を発見!

御蔵跡の南西部で発見された土坑(大きなごみ穴)から200点を超える「木札」が出土しました。そのなかに、墨で木の板に文字を書いた「木簡」がおよそ100点確認されました。「遠田郡」や「志田郡米袋」など宮城県北部の地名や「惣五郎」「忠右衛門」などの人名のほか、容量や重さの単位や数量などが書かれています。これらの木簡は「荷札木簡」と考えられ、宮城県北部から舟で運ばれてきたコメなどの物資につけられていたものと考えられます。蒲生の地が、仙台北下に物資を輸送する際の重要な役割を果たしていたことを示す、貴重な資料です。



蒲生御蔵跡木簡

7 蒲生御蔵跡 宮城野区蒲生北部

貞山堀の舟溜りと御蔵跡を対象とした試掘確認調査が行われ、舟溜りでは、関連する護岸施設の一部が確認されました。また御蔵跡の調査では、土坑から数十点の荷札木簡が出土し、埋蔵文化財包蔵地「蒲生御蔵跡」として新規登録されました。

数多くの須恵器が出土

郡山遺跡245次調査では須恵器などの遺物が数多く見つかりました。

中でも「双口盤」と呼ばれる、全国的にも珍しい注ぎ口がついている須恵器が見つっています。

一体どのような使い方をしていたのでしょうか。



須恵器 双口盤

8 郡山遺跡 太白区郡山

郡山遺跡は、官衙(役所)であったことが分かり、国の史跡として指定されています。官衙は、I期(7世紀半ば頃~後半頃)とII期(7世紀後半頃~8世紀始め頃)に分けられ、特にII期は、多賀城創建前の陸奥国府として機能していたと考えられています。

平安時代の遺物発見!～古代の役所が近くにあった?

下飯田東遺跡からは、灰釉陶器という草木灰を使った釉をかけた小瓶と、墨書がある素焼きの坏、官衙(役所)や寺院で使用される瓦が出土しました。灰釉陶器は、平安時代(9～10世紀頃)に東海地方で生産され、遠路はるばる運ばれてきたものです。墨書土器も奈良～平安時代の官衙・寺院から多く出土するものです。近くにある下飯田遺跡からも「寺」と墨書された土器が出土しています。これらの特徴から下飯田東遺跡付近には古代の役所があったのでしょうか。



東海地方で生産された灰釉陶器の小瓶

11 下飯田東遺跡 若林区下飯田

下飯田東遺跡は、現在の海岸線から約2.7km離れた約4500～5000年前の海岸線の第I浜堤列上に位置しています。平成26年に発掘調査が行われ、上記の遺物のほか、竪穴住居跡や溝跡、土坑などが確認されました。周辺には、西に古墳～奈良時代の集落跡が見つかった下飯田遺跡、北に2基の古墳が検出された屋敷東遺跡、南隣には下飯田薬師堂古墳があります。

石庖丁のつくり方を解明!?

高田B遺跡の発掘調査では、弥生時代の水田跡が見つかり、多くの石庖丁が出土しました。石庖丁の中には、完成したものと未完成と考えられるものがありました。未完成の石庖丁は作る途中で廃棄されたと考えられており、石庖丁の製作過程を探る上で重要な発見となりました。



9 高田B遺跡 若林区日辺

高田B遺跡は、仙台南部道路建設に伴う調査で発見され、震災復興に向けた農地復興事業(ほ場整備)のために再度発掘調査が行われました。縄文時代から江戸時代にかけての住居跡、集落跡、水田跡、道路跡などが確認されました。

遺跡からみる災害の痕跡

過去にあった大きな災害については、歴史資料からだけでなく、遺跡の発掘調査からも確認されることがあります。小さな規模のものを確認することは難しいですが、遺跡から確認できる災害痕跡として地震や津波、噴火、洪水などがあります。その中でも、激しい地震によって大地に刻まれた痕跡には、地割れ跡や地滑り跡、液状化現象による噴砂跡があります。また、地震によってもたらされる津波の痕跡は津波が運んでくる砂の層(津波堆積物)によって確認されます。そして、そのような痕跡を見つけた際には、いつ、どのように起こったのかを検証するためにより丁寧な調査を行っています。

押し寄せてきた津波の痕

市内では弥生時代と平安時代の津波について確認することができます。

若林区の沓形遺跡、中在家南遺跡、荒井南遺跡、高田B遺跡では、弥生時代中期(約2200年前)の水田跡を覆う砂層が見つっています。一番内陸に位置する荒井南遺跡は海岸線から約4.5km(弥生時代は約2.5km)離れていました。津波により弥生時代の集落は姿を消し、その後、約400年近く集落は営まれませんでした。

平安時代の津波は『日本三大実録』という書物に記された貞観地震(869年)によってもたらされたと考えられます。海岸線から約2.5km(平安時代は約1.5km)離れた沼向遺跡では平安時代の水田跡を覆う砂層が見つっています。また、この地震により被害を受けた多賀城跡政庁や陸奥国分寺跡では、建物の瓦の改修が復興政策として行われました。



1 沓形遺跡 若林区荒井

調査では弥生時代から中世の水田跡が確認されました。写真は津波堆積物に覆われた弥生時代の水田跡で、白い部分が津波によって運ばれてきた砂です。